氏名：古田 幸三

専攻・学年：工学部物理工学科 機械システム学コース 3 回生

派遣国：アメリカ

派遣先(研究機関名)：University of California, Davis

受入研究者(職・氏名)：Professor Janis Williamson

派遣期間：2011 年 8 月 13 日 ~ 2011 年 9 月 5 日 (24 日間)

派遣先での研究テーマ：京都大学共同企画 実習型 夏季短期留学プログラム UC Davis (カリフォルニア大学デービス校) EXTENSION

(UC Davis EXENSION, Kyoto University English for Science and Technology Interdisciplinary Research Program)

【研究実施概要】

京都大学から募集のあった夏季短期留学プログラムに上記の期間参加した。ここでは、3~6名のグループにわかれそれぞれが配属されたテーマにそってプレゼンテーションを作成し、最終日にグループで発表を行った。プレゼンテーションの準備のために、大学での授業の他に、サイトビジット(課外授業)として、サンフランシスコ州立大学、NASA Ames Research Center、UC.Davis の Mechanical & Aeronautical Engineering Department に行き講義を聞き質疑応答をした。

【研究成果概要】

一日中、英語で授業を受け、かつ、英語で生活することで国内で経験できない状況で学ぶことができた。そのため、リスニング能力およびスピーキング能力が短い期間であったがかなり上達することができた。また、Space Science について最前線の内容をサイトビジットを通じて知ることができた。そのため、非常に学習意欲の向上に役立った。

人生でほとんど初めての経験となるプレゼンテーションを英語ですることができたことでかなりの自信がついた。他のグループとは違うやり方で、おおまかな流れだけをグループで決めて詳しい内容や台本は決めずに本番に臨むという方法をとったため、3週間の自分の英語能力の向上や Space Science に関する自分の知識がどれだけ蓄えられているかなどを感じながらしゃべることができた。そして、実際に留学当初よりもつまらずに10分間程度自由にプレゼンを行うことができた。

【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上, 海外におけるネットワークづくり】

上記の項目で記したように、授業を通じて英語に触れ続けたことでアカデミックな英語に慣れることができた。そして、それと同時に英語で日常生活をおくることで、そこに生活するだけで多くの英語に触れることができた。今回の留学は、ホームステイであったので家に帰ってからでも英語で生活し、アメリカの一般家庭の日常生活を通して様々な英語を学べ、コミュニケーションをとることができた。メルティングポッドという言葉に象徴されるようにアメリカは移民の国であり、様々な人種、国、民族の人が生活していた。その人々は、さまざまな英語をしゃべっていたが、全ての人に共通していたのは自分の意見をしっかりと自分の英語で相手に伝えていたことだ。それは、大学関係者だけでなく、一般の人々も含めてであり、そのことで私は自分の英語によるコミュニケーション能力の低さを実感した。しかし、彼らがよい刺激になり、より一層英語でしゃべろうという機会になった。

【派遣の感想】

学部3回生という肩書でこの派遣プログラムに参加できたことを心から感謝している。語学の面や施設見学など日本では経験できない多くのことを経験できた3週間であった。そして、さらに英語を身につけたいと強く感じるようになり、よりアカデミックなことを海外で勉強してみたいと感じるようになった。まだ、3回生ということもあり、大学院を決める時などより広い視野をもってこれから行動していきたい。